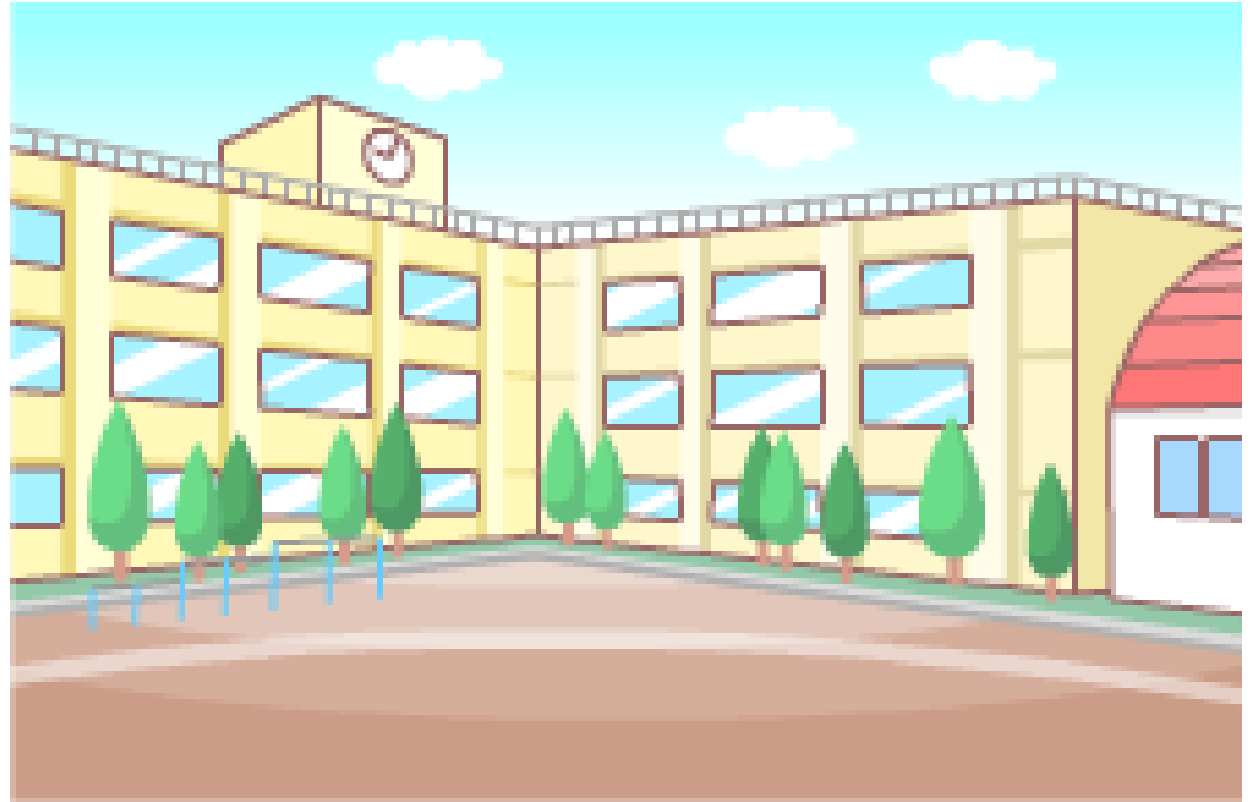


担任サポート 動画②

受験対策の進め方
<11月2回>



学習の進め方 【教職教養】



重点事項を中心に網羅的に学ぶ

- 基礎講座を受講する。
- テキストを読み、内容や相互関係を理解する。
- 重要箇所を中心に整理する。



学んだ内容を定着する

- 一問一答形式の問題を解く。
- 重要箇所をまとめたレジュメ等を読み直す。
- テキストのマーカー等でチェックした部分を読み直す。



過去問を解く

- インターネット、大学、県情報センター、書店等で過去問を入手する。
- 自力で解いた後、テキストを参照して、分からなかった問題を解く。
- 解答を見て（解説を聞いて）理解する。



出来なかった問題を 「確認ノート」に記録する

- ① ルーズリーフノートを準備する

② 目次を作成する

【教育原理】

1. 教育課程論
2. 学習指導要領
3. 教授・学習理論, 教育プラン
4. 道徳教育
5. 総合的な学習の時間
6. 特別活動
7. 生徒指導
8. 特別支援教育
9. 人権教育, キャリア教育, 情報教育等
10. 社会教育・生涯学習
11. 学校・学級経営

【教育法規】

1. 教育と法規
2. 教育の基本に関する法規
3. 学校の管理運営に関する法規
4. 児童生徒に関する法規
5. 教育職員に関する法規
6. 特別支援教育に関する法規
7. 学校保健・安全に関する法規
8. 教育行政に関する法規
9. 社会教育に関する法規
10. その他の法規

【教育心理】

1. 教育心理論
2. 発達
3. 学習
4. 性格と適応
5. カウンセリングと心理療法
6. 教育評価
7. 学級集団

③ ノート表に不正解の問題を貼る

原理・9枚
左の方答申

【過去問4】次の文は、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月中央教育審議会)「第1章 キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性」「3.キャリア教育・職業教育の方向性を考える上での視点」の一部を抜粋したものである。文中の(ア)～(エ)に当てはまる語句の正しい組合せを選びなさい。

基礎的・汎用的能力は、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力であるとする。例えば、企業が新規卒者に期待する力は、就職の段階で「~~ア~~」といえる状態にまで学校教育を通じて育成することを求めているわけではなく、一般的には、「~~イ~~」「熟意・意欲」「行動力・~~ウ~~」等の基礎的な能力を挙げることが多い。社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力と現在学校教育で育成している能力との接点を確認し、これらの能力育成をキャリア教育の視点に取り込んでいくことは、学校や社会・職業との~~エ~~を考えると意義がある。

	ア	イ	ウ	エ
①	即戦力	キャリアプランニング能力	実行力	接続
②	社会的自立	キャリアプランニング能力	思考力	連携
③	即戦力	コミュニケーション能力	実行力	接続
④	社会的自立	コミュニケーション能力	実行力	連携
⑤	即戦力	コミュニケーション能力	思考力	接続

④ ノート裏に解説を貼る

【キャリア教育】

学校から社会へのスムーズな移行を目指し、小・中学校の学習指導要領に「キャリア教育」が位置付けられた。キャリア教育とは、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のことである。

● 各学校段階のキャリア教育推進の主なポイント

小学校

働くことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養う

中学校

社会における自らの役割や将来の生き方、働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く

後期中等教育

生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、これを通じて勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立する

高等教育

学校から社会・職業への移行を見据えて、自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸張・深化させる取組を教育課程の内外での学習や活動を通じ充実する

● キャリア教育の基本的な方向性

- 小・中学校では、特別活動の学級活動を要としつつ、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としてのカウンセリング等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて実施すること。
- 特に日常の教科等の学習指導においてキャリアの視点を大事にし、将来の生活や社会と関連付けながら見通しを持ったり、振り返ったりしながら学ぶ「主体的・対話的で深い学び」を実現すること。
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である『基礎的・汎用的能力』を育成すること。
- キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつけることにより、児童生徒の学習意欲を喚起すること。

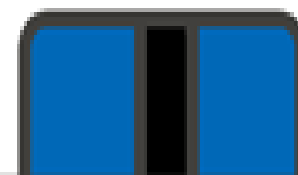
● 社会的・職業的自立に必要な力

基礎的・基本的な知識・技能を土台として、以下の能力を育成することで、専門的な知識・技能が育成される。

- 基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）
- 論理的思考力・創造力
- 意欲・態度及び価値観

トレーニング(基礎問題集)を解く

- 配布されているトレーニング問題を解く。
- テキストを学習しながら並行して実施してもよい。
- 自力で解いた後、テキストを参照して、分からなかった問題を解く。
- 解答を見て（解説を聞いて）理解する。
- 解けなかった問題を確認ノートに記入する。



トレーニング(基礎問題集)を解く(2回目)

- 1回目で解けなかった問題を中心に再度トレーニング問題を解く。
- 基礎講座を受講しながら並行して実施してもよい。
- 自力で解いた後、テキストを参照して、分からなかった問題を解く。
- 解答を見て（解説を聞いて）理解する。
- 2回目も解けなかった問題について、確認ノートにチェックを入れる。

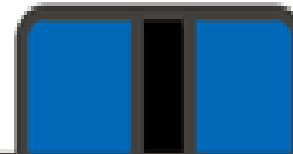


学習の進め方
【専門教養】
【一般教養】



過去問を解く

- インターネット、大学、県情報センター、書店等で過去問を入手する。
- 自力で解いた後、参考書等を参照して、分からなかった問題を解く。
- 解答を見て（解説を聞いて）理解する。



解答結果を分析し、学び直す

- 専門教養

(～3割) 全体を学び直す。

(4割～6割) 正解できなかった分野を学び直す。

(7割～) 問題集に進む。

- 一般教養

(～6割) 不得意分野と出題の多い分野を学び直す。

(7割～) 問題集に進む。



問題集を解く

- 教員採用試験用の問題集を用意する。
- 問題を解き、解答を確認する。



新しい問題集に挑戦する



学習の進め方 【論文対策】



基礎を学ぶ

- 基礎講座を受講して、課題把握や論文構成、策の作成法などを理解する。
- 教採論文に適した記述方法を理解する。

出題傾向を把握する



基本的なテーマで作成する

- 学力向上、豊かな心の育成、健康づくりの3テーマで作成する。
- 論文を作成したら、必ず添削を受ける。
- 講師から修了をもらうまでは、何度でも書き直す。



振り返りをする

- 構成方法、構成要素の盛り込み方を振り返る
- 考察、策の作成方法を振り返る
- 適切な日本語の使い方を振り返る
- 教採論文での適切な表現方法を整理する。



新しいテーマで作成する

- 自治体の傾向に基づき作成する。
- 自治体の教育ビジョン等をテーマに作成する。
- 「安全・安心」、「家庭や地域との連携」をテーマに作成する。
- 作成した論文は、必ず添削を受け、書き直す。



整理する

- 様々なテーマの「序論の考察」と「本論の策」を作成する。
- 今まで作成した論文の「序論の考察」と「本論の策」も整理する。



振り返る

- 今まで作成した論文を読み直す。
- 今まで作成したテーマでもよいので、論文を作成する。

